

一人の無名作家

芥川龍之介

青空文庫

七八年前ぜんのことです。加賀かがでしたか能登のとでしたか、なんでも北国ほくごくの方かたの同人どうじん雑誌ざっしでした。今では、その雑誌の名も覚えて居ませんが、平家物語へいけものがたりに主題を取つて書いた小説の載のつてゐるのを見たことがあります。その作者は、おそらく青年だつたらうと思ひます。その小説は、三回に分れて居りました。

一は、平家物語の作者が、大原御幸おほはらごかうのところへ行つて、少しも筆が進まなくなつて、困り果てて居るところで、そのうち、突然、インスピレーションを感じて、——蕘破いらつかれては霧不断きりふだんの香かうを焚たき、枢落とほそちては月常じやうちゆう住ぢゆうの灯とうを挑しかぐ——と、云ふところを書くところが、書いてありました。

それから二は、平家物語の註釈ちゆうしゃく者しゃのことで、この註釈者が、今引用した——蕘破いらつかれては……のところへ来て、その語句の出所しゆつしよなどを調べたり考へたりするけれども、どうしても解わからないので、俺おれなどはまだ学問が足りないのだ、平家物語を註釈する程に学問が出来て居ないのだと言つて、慨がい歎たんして筆を擱おくところが書いてありました。

三は現代で、中学校の国語の先生が、生徒に大原御幸おほはらごかうの講義をしてゐるところで、先生が、この——霧不断きりふだんの香かうを焚たき……と云ふやうな語句は、昔からその出所も意味も解らな

いものとされて居ると云ふと、席の隅の方に居た生徒が「そこが天才の偉いところだ」と、
ひとりごと
独言のやうに呶くとところが書いてありました。

今はその青年の名も覚えて居りませんが、その作品が非常によかつたので、今でもその
テエマは覚えてゐるのですが、その青年の事は、折々今でも思ひ出します。才を抱いて、
埋もれてゆく人は、外にも沢山ある事と思ひます。

(大正十五年三月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

一人の無名作家

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>